

令和3年度 地域子供の未来応援交付事業  
徳島県子どもの未来応援コーディネーター養成研修  
【報告会】

徳島県内の子どもの居場所づくりの  
広がりとこれから  
—運営者の声や鳴門教育大学学生の参画から—



令和4年3月17日（木）  
鳴門教育大学 木村直子

これまでの3年間の取組  
徳島県・徳島県社会福祉協議会・鳴門教育大学

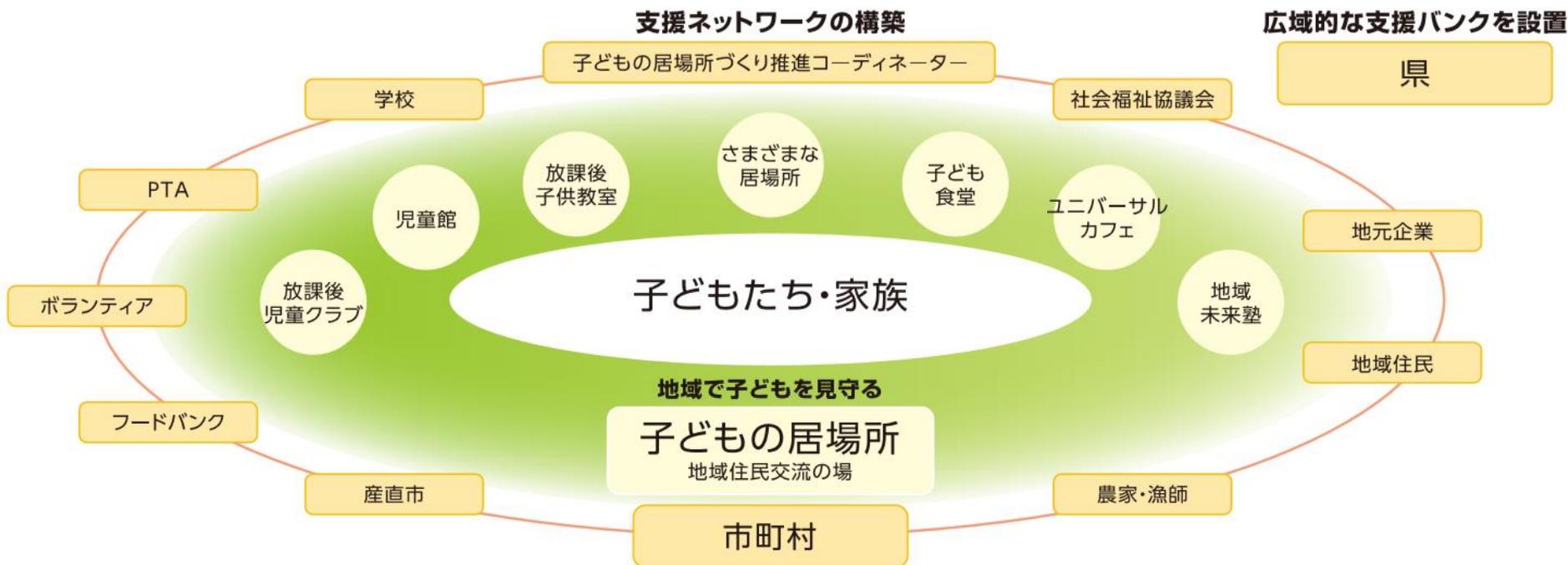
- 「子どもの居場所」づくり推進ガイドライン策定
- 啓発リーフレット・パネルの作成・県内を巡回
- 「わたしのいばしょ・みんなのいばしょ」作成
- 「とくしま子どもの居場所マニュアル」作成

- 今年度の鳴門教育大学の学生の取組

# 徳島県「子どもの居場所」づくり推進ガイドライン

令和元年5月29日

## ➤ 徳島県「子どもの居場所」づくり推進ガイドライン



# 徳島県「子どもの居場所」づくり推進ガイドライン

## 『子どもの居場所』とは？

- 地域の大人との継続的な交流ができる
- 子どもたちにとって安全で安心な居場所
- 信頼関係のもとでの様々な活動を行う中で、すべての子どもたちが夢や希望をもって健やかに成長していける場である

原則として18歳に満たない

全ての子どもや家庭を、地域で見守る居場所

➤ 子どもたちだけでなく、地域の誰もが共に集う場

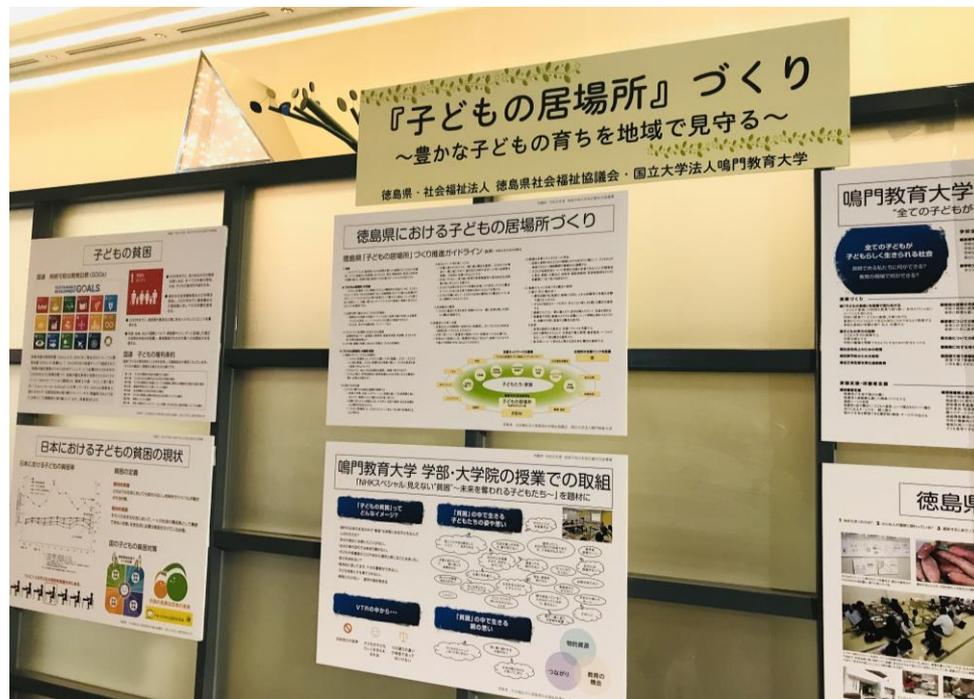
# 啓発リーフレット・パネルの作成（令和元年度）

## 『子どもの居場所』づくり

～豊かな子どもの育ちを地域で見守る～



徳島県・社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会・国立大学法人鳴門教育大学



とくしま子どもの居場所づくり  
応援サイト



# 県内における啓発パネル巡回展（令和2・3年度）



あすたむらんど徳島



徳島県庁ロビー



よんでんエネルギープラザ阿南



徳島県社会福祉協議会 1階

# 大学図書館でのパネル展示会（令和2年度）

## 図書館の展示内容

- ① 徳島県・徳島県社会福祉協議会・鳴門教育大学の連携によって作成したパネル
- ② 「子どもの居場所」「子どもの貧困」に関連する大学蔵書図書展示（80冊）・貸出



大学図書館での展示  
『子どもの貧困・子どもの居場所づくり』

# 大学ギャラリーパネル展 (令和2・3年度)

## 大学ギャラリーの展示内容

- ① 徳島県・徳島県社会福祉協議会・鳴門教育大学の連携によって作成したパネル (SDGs とのつながり/子どもの貧困/現場の活動)
- ② 学部及び大学院の授業における学生の取組のパネル
- ③ 大学との連携市である鳴門市における学生や教員の取組パネル



令和3年度展示



令和2年度展示



# 「とくしま子どもの居場所マニュアル」作成 (令和3年度)

目的：「子どもの居場所」を新規に立ち上げたり、継続して運営していくための必要なノウハウを紹介しています。

デジタルブック形式で、居場所のコンセプト作りから、資金や物件探し、設計や、団体の構成の仕方、食材の調達、保健所の申請など、これから始めたいけれど、何からしたらよいのか？という方々に寄り添う内容になっています。

- 詳細は、この後、徳島県社会福祉協議会の子どもの未来応援コーディネーターの金平さんより報告

これまでの3年間の活動  
徳島県・徳島県社会福祉協議会・鳴門教育大学

- 「子どもの居場所」づくり推進ガイドライン策定
- 啓発リーフレット・パネルの作成・県内を巡回
- 「わたしのいばしょ・みんなのいばしょ」作成
- 「とくしま子どもの居場所マニュアル」作成

- 鳴門教育大学の学生の取組

# 鳴門教育大学 学生の参画と取組 (令和元年度～令和3年度)

## 鳴門教育大学子ども未来応援プロジェクト

将来教員や学校現場で働く学生を中心に、子ども未来応援運動に則り、徳島県内の「子ども食堂」をはじめとする「子どもの居場所」における**ボランティア**としての参加、**普及啓発活動**への参画、**調査**の受託等を通して、「子どもの居場所」づくりの推進に参画することを目的とする。

- 令和元年度より徳島県との連携事業から企画
- 令和2年度11月に学生団体として登録
- 現在14名の学部生と大学院生が所属

# 子どもの貧困について考える授業

内閣府 令和元年度 地域子供の未来応援交付金事業

## 鳴門教育大学 学部・大学院の授業での取組 「NHKスペシャル:見えない“貧困”～未来を奪われる子どもたち～」を題材に

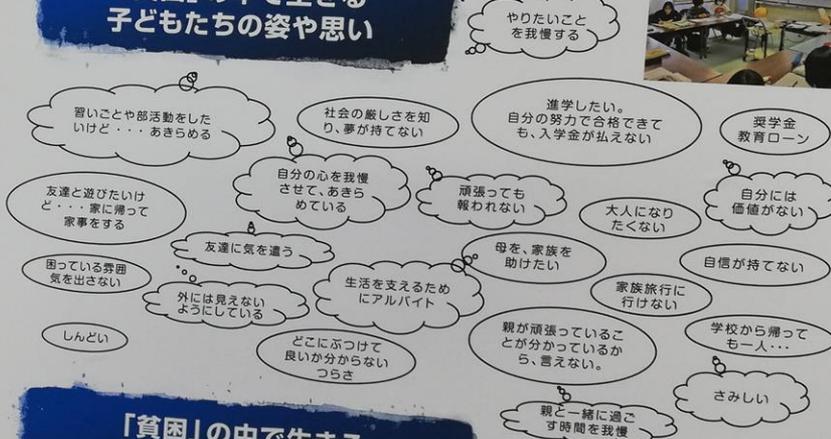
### 「子どもの貧困」って どんなイメージ?

- ・現代の日本の社会の中で“貧困”な状態にある子どももなっているだろうか?
- ・自分の身近には感じたことがない。
- ・自分の身の回りではあまり聞かない。
- ・子どもや保護者のつぶやきから漠然と感じることはあった。
- ・助けを求めない?
- ・経済的に困っており、十分な養育ができない。
- ・子どもを産んでも育てられない。
- ・病院に行けない ・進学が狭まる

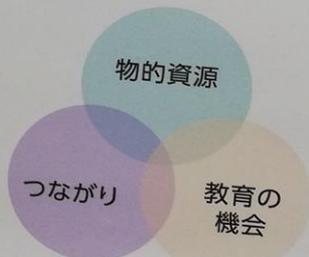
### VTRの中から...

- ⊘ 自助努力の限界
- 😊 子どもが子どもらしく生きられる社会
- ⚖️ 100通りの違いが格差であってはいけない

### 「貧困」の中で生きる 子どもたちの姿や思い

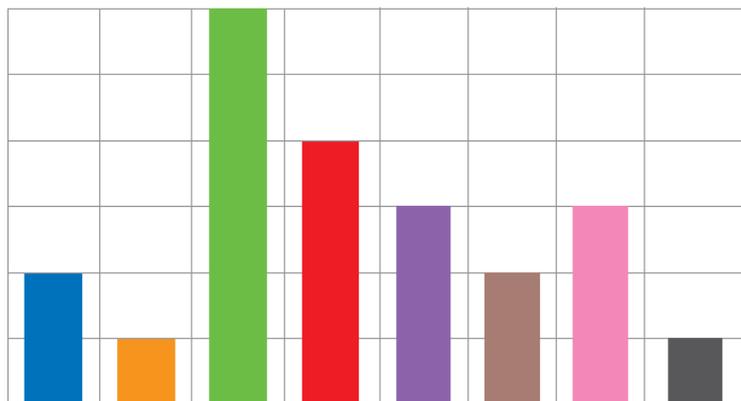


### 「貧困」の中で生きる 親の思い



# ボランティアに参加する学生

● ボランティアに参加することになったきっかけは何ですか(複数回答可)



- チラシや案内を見て
- SNSやHPなどネット情報を見て
- 学校の先生からの紹介で
- 友達に誘われて
- ボランティア先の人から直接誘われて
- 授業の一環で
- サークルやクラブ活動の一環で
- その他

\* 啓発冊子より

- ・一緒に遊んだりごはんを食べたりするとき
- ・子どもたちと関わっているとき・子どもたちと遊んでいるとき
- ・子どもと一緒に遊びを共有できたとき・子どもの成長を感じたとき
- ・様々な年代の子どもと遊んだり、話をしたりするとき
- ・子どもと何か通じたなと感じたとき・子どもが喜んでくれたとき
- ・保護者の方から子どもたちの話を聞くとき
- ・ボランティアの人同士のコミュニティが良い関係のとき
- ・大学の外の方と知り合ってお話を聞けるとき
- ・自分でこうしてみようと色々試しながらできるとき
- ・周りが楽しそうにしているとき
- ・新たな発見や学びがあったとき
- ・自分の力が身に付いたと実感したとき
- ・自分が頑張った、役に立ったと自分で思えたとき
- ・スタッフの方の温かさに触れられたとき
- ・感謝されたり、助かったという気持ちを受け取ったとき

ボランティアに参加して楽しいなと思うのはどんなとき？

# 子どもの居場所でのボランティア

- 児童クラブでのアルバイトやボランティア
- 学童保育のボランティア
- 小学校での絵本の読み聞かせボランティア
- 小学校での学校・子ども応援サポーター
- 子どもの居場所でのボランティア  
⇒ 観音寺 DE 子ども食堂
- 子ども食堂でのボランティア  
⇒ NARUTO総合型スポーツクラブの子ども食堂

# 子どもの居場所でのボランティア

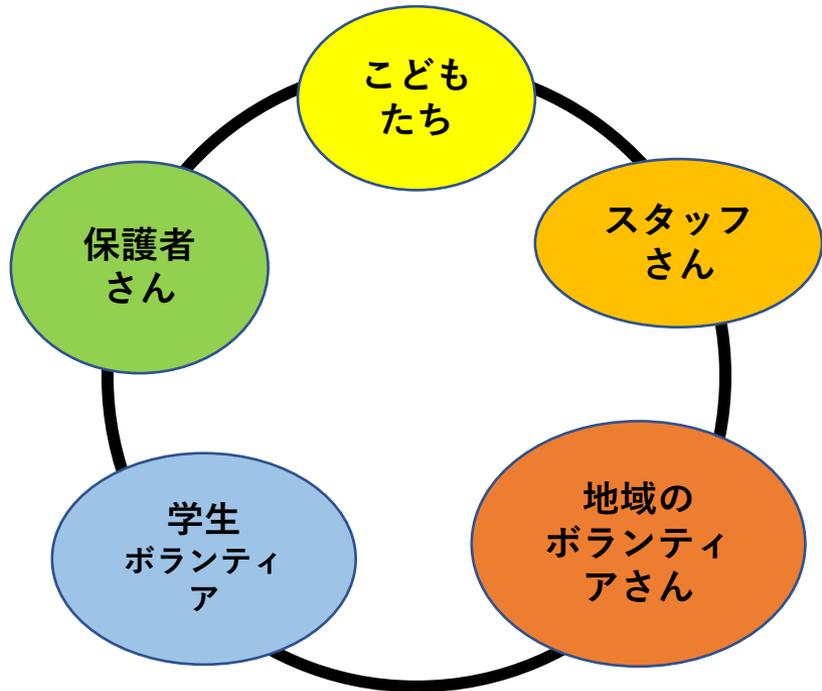
## 「観音寺 DE 子ども食堂」

- 子どもたちが自分で芋餅を作れて嬉しそうにしていたことや参加者の方々は「楽しかった」と笑顔で帰られていたのが印象的でした。
- 子どもたちが初めて体験することを、私たちも一緒になって学び、気持ちを共有できたところである。
- ボランティアや主催者だけではなく、子どもの保護者の方々も助け合い、皆で活動を作っているという一体感が持てた。

# 子ども食堂でのボランティア

## < 活動内容 >

子どもと遊ぶ、宿題の手伝い、一緒にご飯を食べる・片付けなどスポーツクラブの手伝い



学びの機会

発見の機会

つながりの機会

# ボランティア活動を通しての学生の感想

子ども食堂は、複数の学校や学年など様々な環境の子どもたちが集う場になっています。様々なカラーが混ざり合っており、他者がいる中における「自分らしさ」をのびのびと表現している印象をうけました。また友人の留学生も一緒に活動に参加したこともありましたが、実際に海外の人と接することは初めてで、緊張しているようでしたが、日本や留学生の国の簡単なゲームをして、打ち解けていました。

ボランティア活動を通して、子どもたちとの関わり方や姿勢を学ばせていただきましたが、私にとっても子ども食堂は心地よい「居場所」になっています。



# 学生らの学び

□子ども食堂のボランティアなど学生の現場での活動は、**現状を知る**ことにつながるだけでなく、**人手不足**などの現場の課題へ**解決**への一助になり得る。

□現場での活動では、**大学内ではできない学びや経験**ができる。

□地域の方々とのつながりの輪に入り、一員としてその時間を純粋に**楽しむ**ことができた。つながりの**心強さと温かさ**を感じられる。

□地域社会の中で点のように暮らす学生にとって、地域の**市民としての自覚や役割の認識**に繋がり、**次世代育成**にもなる。



# 子どもの居場所が抱える課題

- 継続的に実施する資源（場所・資金・人材）の確保
- 誰もが自然体で集えるような居場所を運営
- 次の担い手にバトンを引き継ぐ、しかけや工夫
  - ①地域の中で有志としてされている小さな活動（PTA活動や、自治会、サークル活動）をされている方々
  - ②居場所の方々がお互いの活動を知り合ったり、情報交換の場や機会
  - ③先進的な居場所を運営する人々のノウハウを伝達し、活動に参加した人にバトンをつなぐ

# 「子どもの居場所づくり」の現在

- 設置目的や運営指針の縛りが少なく、自由度の高い場であるという強みを活かした多様な居場所の広がりとの繋がりの形成
- 子どもの豊かな育ちを支えるという理念の共有
- 誰もが集える地域における「みんなの居場所」
- 運営者や大人の存在によって「ほっと温かい居場所の雰囲気」の醸成
- コミュニティの芽となる繋がり
- 運営者を支えるコーディネーターの重要性

# 「子どもの居場所」の未来像

- 「子どもの居場所・みんなの居場所」が、地域の中の拠点の一つとして、あたりまえに存在し、自然に集える場に
- その地域で暮らす人々の生活に自然に組み込まれているような場に
- 集う人々が場を提供してもらおう、というよりは、この場に集い、この場にいることを共有する人々によって作られる場に。
- 「子どもの居場所・みんなの居場所」を核とした新たなコミュニティの形成

ご清聴  
ありがとうございました

